

千代田化工建設

グループCSR報告書

2013



会社概要

千代田化工建設は、各種プラント・施設の設計・建設をグローバルに展開する総合エンジニアリング企業です。

私たちは、エネルギーと環境の調和を図りつつ、持続可能な社会の発展に貢献する企業グループとしてチャレンジします。

社名

千代田化工建設株式会社
(CHIYODA CORPORATION)

所在地

横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

主なオフィス

千代田化工建設グローバル本社(横浜市西区)
子安オフィス・リサーチパーク(横浜市神奈川区)
東京オフィス(東京都千代田区)

資本金

433億96百万円

主な事業内容

エネルギー、化学、医薬品、バイオ、環境分野などの各種プラント・施設に関するコンサルティング、計画、設計、調達、建設、試運転、運転・保安全管理コンサルティング／トレーニング、研究開発・技術サービス、プロジェクトマネジメント

主要なグループ会社

国内グループ会社7社
海外グループ会社12社

従業員数

4,915名(千代田グループ)

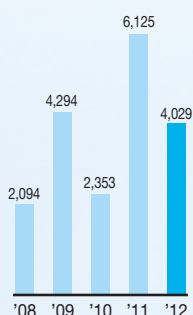
URL

<http://www.chiyoda-corp.com/>

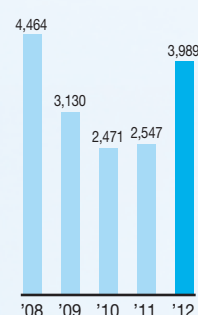
(2013年3月31日現在)

連結業績(億円)

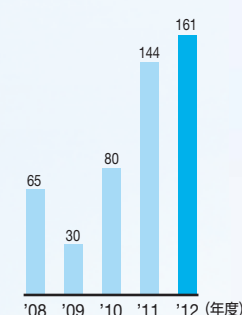
受注工事高



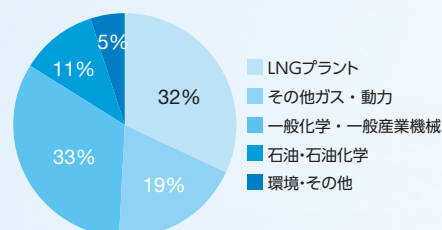
完成工事高



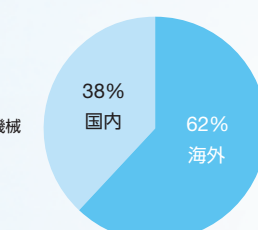
当期純利益



分野別売上高構成比(2012年度)



地域別売上高比率(2012年度)



表紙について

新中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」のスタートに合わせ、多様な人材の育成・登用、事業遂行のグローバル分担体制を、経営理念「エネルギーと環境の調和」とともにイラストで表現しました(P4～5ご参照)。



目次

会社概要	本頁
編集方針	1
千代田グループのCSR	2
トップメッセージ	4
ステークホルダーダイアログ	
継続的な交流による価値の発揮	6
特集：再生可能エネルギー普及への貢献	8
国内外グループ会社の活動紹介	10

CSRビジョンごとの活動紹介

CSR vision ① ～信頼される企業	12
CSR vision ② ～環境への取組	13
CSR vision ③ ～事業を通じた社会への貢献	14
CSR vision ④ ～人の尊重	15
CSR vision ⑤ ～公正正大な企業運営	16
第三者意見	17

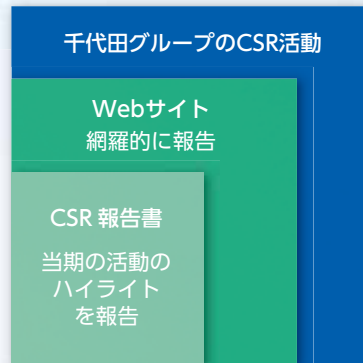
編集方針

当社グループのCSR活動は、
WebサイトとグループCSR報告書で報告しています。

Webサイトや他の発行物とのすみ分け

WebサイトとCSR報告書の記載内容のすみ分けは下図のとおりです。Webサイトでは、閲覧者の皆様にご理解いただきやすいよう、当社グループのCSRに関する基本情報や活動内容を、CSRビジョンごとにご紹介しています。

また、事業および財務に関する情報については、下記の発行物を合わせてご参照ください。



報告書 (株主通信)

会社法に基づき、株式会社に作成することが義務づけられている一事業年度ごとの「年次報告書」で、株主に郵送しています。上半期(4月～9月)分については中間報告書を作成しています。



ANNUAL REPORT

海外の株主や投資家向けに英文でつくられた「年次報告書」です。英文連結財務諸表などを記載した“Consolidated Financial Statements”を別冊として作成しています。



ファクトブック

株主や投資家向けに、各種財務指標・経営数値の長期ヒストリカル・データなど投資分析に必要な情報を、グラフや図なども活用して記載したデータ集です。

上記は、中期経営計画、有価証券報告書・四半期報告書などとともに、いずれも当社Webサイトからダウンロードできます。

<http://www.chiyoda-corp.com/ir/library/index.html>

千代田化工 IR資料

また、コーポレート・ガバナンス報告書は以下からダウンロードできます。

<http://www.chiyoda-corp.com/company/corporate-governance.html>

千代田化工 コーポレートガバナンス

CSR報告書の構成

報告書では、2012年度の活動をハイライトしてご報告しています。

「会社概要」、「トップメッセージ」、「CSRビジョンごとの活動紹介」、「国内外グループ会社の活動紹介」および「特集:再生可能エネルギー普及への貢献」に加え、今回は「ステークホルダーダイアログ: 継続的な交流による価値の発揮」を設け、外部の方との対話を通じて千代田グループに対する期待など生の声をご紹介します。また、CSR活動をより良いものとするため、有識者から客観的な評価、助言をいただき、「第三者意見」として掲載しています。

報告の対象範囲

千代田グループ20社(千代田化工建設および連結子会社・持分法適用会社など19社)のCSR活動を、報告の対象範囲としています。特定の会社による活動をご紹介します場合は、その旨記載しています。

報告の対象期間および発行

報告対象期間：2012年度
(2012年4月1日～2013年3月31日)

発行月：2013年8月

参考にしたガイドライン

[the Global Reporting Initiative's Guidelines (the G3.1 guidelines)]、「環境報告ガイドライン2012年版」(環境省)、および「ISO26000」、「国連グローバル・コンパクト」を参考にしています。

【ご意見・ご感想をお寄せください】

皆様のご意見やご感想を、私たちの活動に反映させたいと思っています。皆様のご意見やご感想は、当社Webサイト内「お問い合わせ」ページのフォームより「CSR関係」をお選びの上、お送りください。

私たちの使命

千代田グループ経営理念

総合エンジニアリング企業として、英知を結集し研鑽された技術を駆使して、エネルギーと環境の調和を目指して事業の充実を図り、持続可能な社会の発展に貢献する。

私たちの価値観 CSR vision

私たち千代田グループは総合エンジニアリング企業として、事業の推進により社会の持続的発展に寄与することはもとより、以下を継続的に推進することにより企業価値を高め、全てのステークホルダーから信頼と共感を得る企業であり続けるよう努めます。

1 信頼される企業

世界トップクラスの技術と知見の提供により、お客様をはじめ取引先から信頼され続ける企業となるよう努めます。

2 環境への取組

研鑽された技術を駆使して、地球環境と、経済・社会活動の調和を図り、社会にとってかけがえのない企業であり続けるよう努めます。

3 事業を通じた社会への貢献

国内・海外のエンジニアリング事業の遂行を通じ、人材育成、技術移転、環境保護等地域社会への貢献に努めます。

4 人の尊重

全ての人々の人権を尊重します。同時に従業員の多様性、個性、人格を尊重し、従業員とその家族が誇りを持てるような働きやすく、働きがいのある企業風土作りに努めます。

5 公明正大な企業運営

常に高い倫理観に基づいて公正な事業を営み、透明性と安定性を高めるよう努めます。

国際規範との対応

ISO26000 中核課題

国連グローバル・コンパクト

消費者(顧客)
課題

—

環 境

原則7：環境問題の予防的アプローチ
原則8：環境に対する責任の
イニシアティブ
原則9：環境にやさしい技術の
開発と普及

コミュニティー
参画
および開発

—

人 権
労働慣行

原則1：人権擁護の支持と尊重
原則2：人権侵害への非加担
原則3：組合結成と団体交渉権の実効化
原則4：強制労働の排除
原則5：児童労働の実効的な排除
原則6：雇用と職業の差別撤廃

組織統治
公正な事業慣行

原則10：強要・賄賂等の腐敗防止の
取組み

私たちが行動する際の拠り所

千代田グループ
行動規範



「国連グローバル・コンパクト」に参加しました

千代田グループは、2012年11月、CSRに関するグローバルな規範として知られる「国連グローバル・コンパクト」に、大手エンジニアリング会社を含む建設業としては、日本で初めて賛同・支持を表明しました。世界の140カ国を超える約11,500団体（2013年6月現在）とともに、人権・労働・環境・腐敗防止に関する10原則に則り、これまで取り組んできたCSR活動をさらに強化して、持続可能な社会の発展に貢献します。

活動方針	2012年度の活動	具体的な取り組み
<ul style="list-style-type: none"> 質の高いエンジニアリングの提供によりお客様の満足を得る信頼性のあるプラントの提供 協力会社など取引先とのCSR理念の共有 	<ul style="list-style-type: none"> エネルギーの安定供給と地球温暖化ガス削減への取り組み エネルギー源の多様化への貢献 お客様の信頼に応えるプラント建設 	 P.8, 9, 12
<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の少ないエネルギー技術、環境保全技術の開発、提供 環境保全に寄与する企業活動 	<ul style="list-style-type: none"> 低炭素社会・水素社会に向けた研究開発の継続 再生可能エネルギーの普及、促進 環境および生物多様性に配慮したプロジェクトの計画、運営 	 P.8, 9, 13
<ul style="list-style-type: none"> 事業を通じた社会への貢献活動の整備 知力・労力の提供による社会貢献活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 地域社会の文化振興助成 地域社会の経済発展、人材育成への貢献 次世代教育のための教育機関との連携、協力 東日本大震災復興への取り組み 	 P.6, 7, 14
<ul style="list-style-type: none"> 活気に溢れた組織風土づくりと人材育成の実現 「安全はコアバリュー」の全関係者への浸透 	<ul style="list-style-type: none"> 働きやすい職場環境づくり 安全文化の確立と徹底 人材育成制度の充実 	 P.15
<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスの徹底と透明性ある企業活動 リスク対応の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> グループ会社との連携強化／サプライチェーンへの展開 情報セキュリティの徹底 安全保障貿易管理の意識向上 	 P.16

千代田グループ 役職員行動の手引き

「千代田グループ行動規範」「千代田グループ役職員行動の手引き」については、下記Webサイトをご参照ください。

千代田グループ行動規範
<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/behavior.html>

千代田グループ役職員行動の手引き
<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/compliance.html>



エネルギーと環境の調和を目指し、
時代を捉え、時代を拓き、
持続可能な社会の発展に貢献して
いきます。

千代田グループの社会的責任(CSR)

創業65周年を迎えた当社は、創業以来、時代やその国に最先端技術を必要とするインフラを広く提供するエンジニアリング企業として、エネルギーと環境の調和を目指し、社会の発展に貢献することに努めてきました。

昨今のエネルギー業界は、ガスシフトや再生可能エネルギーなどの構造的変化や、シェール革命による北米市場の活性化など環境の変化が激しく、社会的要請も多様化しています。

このような中、グループ経営理念に基づき、時代の要請を的確に把握し、貧困、環境、資源確保などグローバルな課題解決に向けて社会の求める価値をエンジニアリングで提供することが、「千代田グループのCSR」であると考えています。

これからの時代にふさわしいエンジニアリング企業に変革するため、時代を捉え、時代を拓く

当社グループでは、「時代を捉え、時代を拓く」をキャッチフレーズとする新中期経営計画を策定しました。計画策定にあたっては外部環境の変化と動向を分析し、あるべき姿とその実現のためのアクションプランを設定しています。

10年後の千代田グループのあるべき姿を、従来のエンジニアリングコントラクターという業態を核としつつ、①事業領域の多様化を図り、ステークホルダーの満足度を高めている、②新興国・途上国の地域社会への貢献を深化させている、③事業遂行のグローバル分担体制が定着している、企業グループと決めました。

また、成長戦略として、コア事業であるガスLNG分

野を強化しながら、グローバルにオフショア・アップストリーム、新エネルギー、再生可能エネルギーおよび社会インフラ分野への取り組みを行うと同時に、当社の強みを生かせる分野に事業投資を加速させていきます。

この成長戦略実現の要となるグループ体制を構築するため、国籍・性別・年齢などに関係なく多様な人材を育成・登用し、働きやすく、個々の力を発揮できる会社へと進化していきます。その一環として、従業員のみならず業務関係者全員の安全・安心を最優先とした事業を推進するため、2013年4月に専任組織として「危機管理ユニット」を置き強化しました。

永続的な発展と社会から一層信頼される企業を目指して

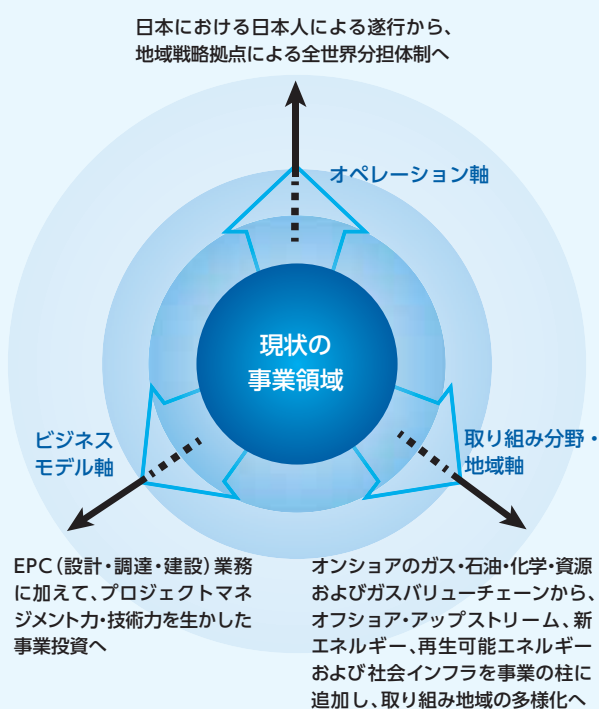
2012年11月、CSRのグローバルな広がりグループの求心力を確固たるものとするために、日本の大手エンジニアリング企業を含む建設業界で初めて、「国連グローバル・コンパクト」^(注)に参加しました。これを機に、千代田グループのCSRビジョンに「グローバル・コンパクト」の10原則を関連させながら、さらにCSR意識を浸透させて、グループ社員一人ひとりの行動につなげていきたいと考えています。また、東日本大震災の復興についても、当社グループの事業およびボランティア派遣などを通じた支援を継続的に推進していきます。

企業活動はさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションの積み重ねが基礎となります。私は相手を尊重し胸襟を開いて丁寧に対話を重ねる姿勢として「微笑み(スマイル)&相手を尊重(リスペクト)」がコミュニケーションの基本姿勢であり、千代田グループのCSR実践の第一歩であると考え推進していきます。今後も社会から一層信頼される企業を目指し、CSRに取り組んでいきます。

(注) 国連グローバル・コンパクト(UNGC): 企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するためのグローバルな枠組みづくりに参加する自発的な取り組み。人権・労働・環境・腐敗防止に関する10原則を軸としている。

当社グループの進化の方向性

3つの軸で事業成長を実現し、さらなる進化を図る



2013年8月

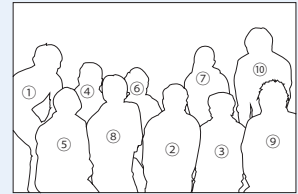
代表取締役社長 澁谷 省吾

ステークホルダーダイアログ



参加メンバー紹介

- 現地コーディネーター(株)経営共創基盤 ①柴田 亮さん
 長洞元気村 事務局 事務局長 ②村上 誠二さん
 ③村上 陽子さん
- 千代田化工建設 ボランティア参加者
 機械設計ユニット ④伊藤 能康
 海外ガス・LNGプロジェクトユニット ⑤清水 法子
 機械設計ユニット ⑥鶴岡 朗
 財務・プロジェクト管理ユニット ⑦中村 祐子
 技術開発ユニット ⑧広畑 修
 ITマネジメントユニット ⑨渡辺 翔大
 CSRユニット ⑩渡辺 真



Stakeholder Dialogue

継続的な交流による価値の発揮

千代田グループは、復興支援ボランティア活動による被災地の方々との継続的な交流を通じて、「支援する側、される側」という関係を超え互いに勇気づけ合い、心を寄せることで生まれる地域再生の道筋をともに考えていきたいと思っています。

復興支援ボランティアの取り組み

千代田グループは、震災発生から1年後、復旧工事対応が一段落した時点で実施した従業員アンケート調査の結果を踏まえて、2012年11月に最初のグループ従業員ボランティア25名を派遣しました。岩手県内3カ所の被災地でボランティア活動を行いましたが、その訪問先の一つが仮設住宅団地「長洞元気村」(陸前高田市広田町長洞地区、以下「元気村」^(注1))です。

元気村は、仮設住宅への移設によりコミュニティがバラバラとなってしまった例が多い中、被災前の隣近所関係をそのまま維持し自主的に仮設運営を行っています。千代田では、訪問後に社内で自発的に立ち上げた「ゆべしの会」^(注2)を通じた交流を現在も継続しています。

(注1) 長洞元気村ブログ：
<http://www.nagahoragenki.jp/blog/genkimura/>

(注2) ゆべしの会：「なでしこ会」の皆さんがつくる伝統菓子ゆべしを定期的に注文し、社内販売を行うなどの交流を図る会。

現地座談会

本年5月に、千代田の従業員35名が元気村を訪問し、このうち7名が「なでしこ会」(なでしこガイドや、ゆべしづくりなどを行うコミュニティ再建の象徴的な存在)の皆さんと半年ぶりの再会を果たしました。この時、復興支援ボランティアのパートナーで常駐協業型の経営支援事業を岩手県、福島県で展開している(株)経営共創基盤の柴田亮氏を交え、元気村事務局の村上誠二氏、村上陽子氏と座談会を行いました。

復興支援ボランティアの取り組み

柴田(司会)：定期的に同じ会社が訪ねてきたり、ゆべしの注文といった形で交流が続いていることを、元気村の皆さんは

どのように感じていますか。

村上(誠)：私たちには自宅を再建するという大きな共通目標がありますが、そこに至る経緯や道のりだけを考えると悲しくなったり、負担に感じてしまいます。でも、同じ会社の人たちが何度も訪ねてくれて、こちらももてなしの心で喜んでもらう。一度の訪問は短期的ですけど、こうした「イベントをやったな」という充実感や自信の積み重ねが、自分たちの力になって大きな目標につながっていると考えているんですよ。

柴田：外部の人が定期的に来て交流すること自体が、コミュニティを元気にしているイベントになっているということですね。

村上(誠)：そのとおりです。大きな目標があるからといって、達成するまで黙々と頑張っているだけでは精神的にもたないです。小さな事業を試行錯誤するという過程を、ある意味楽しむことが大事で、そう受け止めてもらえるといいかなと思っています。事務局としては、千代田の皆さんには気軽に何でも相談できるベースがあるので、「お客さん」というような思いはありません。

渡辺(真)：昨年11月のボランティア派遣後に、参加者のアンケートを行いました。

「なでしこ会」の皆さん



会長
戸羽 八重子さん



語り部
戸羽 英子さん



事務局
村上 林子さん



事務局
金野 幸子さん



事務局
黄川田 きよ子さん

たが、元気村での活動が本当に支援になったのか、もてなされて自分たちが元気をもらって帰ってきたという声が多かったですね。交流を通じて、参加者自身の活性化につながるという予想外の成果も感じています。

伊藤：私も昨年参加しました。最初は「復興支援に行きます!」と意気込んでいましたが、むしろもてなされている感じなんです。それでいいのかなという気持ちがありましたね。でも、何か皆さんの元気につながっているのかなと感じるようになってきました。

柴田：千代田さんは、元気村にとって仮設の活動を始めて3番目ぐらいの、しかも最初の大きな団体の受け入れだったわけですが、ここで成功したことが自信となって、その後のハーバードビジネススクールや、ほかの企業さんとの定期的な交流受け入れにつながっていきました。

村上(誠)：それは私もものすごく強く思います。また、最初の受け入れの昨年11月は私は不在だったのですが、それでも成功させることができました。それが村全体の自信というか、ステップアップになったと思っています。

「ゆべしの会」について

柴田：「ゆべしの会」の存在は大きかったですか。

村上(陽)：皆さんが来てくれるだけありがたいです。ゆべしづくりも、必ず月1回やるべきことになっているというのは、非常にありがたいことで、みんな張り切っています。毎月千代田さんの本社に送っていると、飽きてこないかと心配ですけど。

中村：購買層はどんどん広がっています。

広畑：間に合わなくて買いそびれてしまう社員がたくさんいるぐらいですから大丈夫。いくらでも需要はあります。

村上(陽)：そうなんですか。やっぱり1回



今回ボランティア活動を行った被災地

だけじゃなくて、今回もまた新しいメンバーを連れて来てくださる。つながっていくというのがすごいなと思っていましたね。

清水：うちの部では「ボランティアには行けないから、たくさん買おう」と上司が買って、みんなに配ってくれました。それがきっかけで今回のボランティアに参加している人もいます。

広畑：やはり、元気村の団結力に感動し、それに応えたいという思いからそういう活動ができてきたんじゃないかなと感じています。

鶴岡：千代田という会社はすごくユニークで、本社ビルに千数百名の従業員がいますが、例えば「ゆべしの会をやるよ」と一人が言い出すと、年齢や役職、所属部署に関係なく人が集まって、それが一つの動きになる。人と人の交流を大事にしている会社だし、社員みんなが縦横何らかのつながりがあるので、動きやすいのかなと思いますね。

渡辺(翔)：今の話に関連してですが、私は会社に入って、入社するまでいろいろところでリーダーをやっていた人が多いなと思いました。きっとリーダーをやっていた人は、リーダーの大変さをよくわかっていて、何かやろうという人が出たときに、すぐ応援してくれるんですね。

今後の継続的な活動について

柴田：村上さん、こうやってボランティアで来ていただいたことも地域が復興するために必要なコミュニティービジネスとしての

交流事業のきっかけになったんですね。

村上(誠)：将来的には、ツーリズムという形に結びつけていけないだろうか、ボランティアを受け入れてこれを発展させた形の長洞風ツーリズムも考えてみたいと思っています。

柴田：千代田さんと一緒にやりながら、見えてきそうな夢というか、こういうつき合いをこれからもしていきたいなということがあったら教えてください。

村上(誠)：復興支援の話ばかりではなく、過疎化でだんだん若者も減っていく、この長洞集落全体をこれからどうしていくか。田舎にいる人たちが生き生きと頑張れる環境をどうつくれるかということが、今後の私の課題だと思っています。

そういう意味で、千代田さんに「ゆべしの会」ができて、毎月一定量をつくって送るというのは、今や「なでしこ会」の活動の柱になっています。月1回必ずつくるというベースができて、ほかからオーダーがあった場合にも対応できるようになりました。とても大きな支援だと思っています。私たちも何とか希望に応えようと自分たちで考え、頑張ることが出来ます。これからも、このご縁を大切にしていきたいですね。

柴田：本日はありがとうございました。

元気村の皆さんの活動に感銘を受けたことがきっかけです。



2012年11月に、初めて東日本大震災の被災地へ行きましたが、現地の様子はテレビなどの報道を通じて見るものとは迫ってくるものが違いました。当社の業務では「図面だけ見てもダメ、現場へ行っただけ」をよく言いますが、まさに自ら現地へ出向いて体感することが大事だと感じました。「ゆべしの会」は、元気村の皆さんの活動に感銘を受け、帰京後も関係を継続させたいとの思いから立ち上げたものです。幸い趣旨に賛同してくれる従業員も多く、今では毎月500個近くのゆべしが完売し、驚いています。仕事が忙しくなかなか現地に行けない従業員にもゆべしを買ってもらうことで、参加する意識を持ってもらえるというメリットもあります。元気村の皆さんにはぜひ当社に来ていただき、直接ゆべしファンと交流してほしいと思い、その機会を計画しているところです。

執行役員技術本部本部長代行 石川 正男

特集:

再生可能エネルギー 普及への貢献

エネルギー関連技術のフロントランナーとして、再生可能エネルギー分野への業域拡大と新規技術の事業展開を強化し、クリーンエネルギーの安定供給への貢献を続けていきます。

千代田グループは、「エネルギーと環境の調和」を経営理念の中核に掲げ事業活動を展開しています。経営理念の実現に向け、エネルギーの安定供給と環境保全を両立させるための技術開発やエンジニアリングに1970年代から取り組んできており、これまで排煙脱硫技術、排水処理技術、重質油の分解などの環境技術の開発に努めてきました。最近では、社会的な要請に応える、太陽光・熱、地熱、バイオマスなど再生可能エネルギー利用、水素の大量貯蔵輸送技術による水素サプライチェーンの構築、GTL^(注)関連技術開発など新エネルギー分野へ着実に活動を拡大しています。

特に太陽エネルギーの分野では、これまでのプラント建設で培ったノウハウを生かして、太陽光発電パネルの原料生産プラントから太陽光発電パネルそのものの製造プラントに加え、メガソーラー発電施設建設まで顧客の多種多様な要請に対応し各種プラントのEPC(設計・調達・建設)業務を手がけてきています。本特集では、太陽光発電の普及に寄与するとともに、新しい太陽エネルギーである太陽熱発電分野に積極的に展開を図る千代田グループの取り組みをご紹介します。

(注) Gas to Liquid の略。天然ガスからつくられる液体燃料。



ソーラーフロンティア(株)
宮崎第3工場(国富工場)

降雪地域における大規模太陽光発電所の

太陽光発電所の設計・施工プロジェクトにおいて3番目となる、「INPEXメガソーラー上越」プロジェクトを2013年3月に完工しました。この太陽光発電所は、新潟県という降雪地域での計画実施にあたり、千代田グループの設計ノウハウとエンジニアリング能力が高く評価され受注に至ったプロジェクトです。

国際石油開発帝石(株)の子会社であるインペックスロジスティクス(株)の敷地46,710m²を利用



太陽熱発電分野強化への取り組み

当社は、太陽熱発電分野の開拓にも注力しています。その一環として、次世代型太陽熱発電(熔融塩パラボリックトラフ型太陽熱発電:MSPT-CSP)の事業開発で2011年6月に提携したアルキメデ・ソーラー・エナジー(ASE)社(イタリア)の株式の15%を2012年10月に取得しました。

ASE社はMSPT-CSPの核となる技術である熔融塩集熱管を製造できる世界で唯一のメーカーであり、ともにデモンストレーションプラントの建設や実証運転への準備を進めてきましたが、2013年1月のイタリアにおける電力の固定価格買取制度の施

イタリアに完成したデモンストレーションプラント

世界最大級規模となる太陽電池の単一工場を建設

日本でも再生可能エネルギーによる電力供給の必要性が叫ばれる中、2012年7月に電力の固定価格買取制度が開始され、住宅用から産業用のメガソーラーと呼ばれる大型の太陽光発電所に至るまで、太陽電池の導入量は爆発的に増加しています。

この太陽電池市場に対し、2006年に設立されたソーラーフロンティア(株)は独自のCIS^(注)太陽電池を投入しマーケットシェア拡大に向けて生産工場の建設投資を重ねています。2011年から生産を開始した宮崎第3工場(国富工場)は、当社が請け負ったものであり、CIS薄膜太陽電池生産工場として世界最大、また

太陽電池の単一工場としても世界最大級の規模となる年産900MWの生産量を誇っており、国内のみならず全世界に製品を供給しています。

当社はこの実績とこれまでのプラント建設で培ったノウハウを生かし、再生可能エネルギーの導入拡大が見込まれる分野へも積極的に参加することで、再生可能エネルギーの拡大に貢献していきます。

(注)銅(Copper)・インジウム(Indium)・セレン(Selenium)の頭文字をとった薄膜系の太陽電池。結晶シリコン系太陽電池と比べてシリコンを使用せず、少ない原料で生産できるため安定して製品を供給することができる。

設計・施工業務の取り組み

し、容量2.3MWの太陽光パネルを設置しています。すでに本年3月より発電を開始しており、その全量を東北電力(株)へ売電しています。予想される年間発電量は一般家庭約750世帯分の年間電力消費量に相当するものです。

厳しい環境下における大規模太陽光発電所の設計・施工を通じて、クリーンエネルギーの安定供給への貢献を果たしています。



完成したメガソーラー設備

行を契機に本事業分野の拡大が加速することを見越し、資本参加したものです。当社は、この業界やビジネスに精通するASE社への資本参加をきっかけに、太陽熱発電所のEPC業務受注とともにASE社の集熱管販売の拡大を目指しながら、太陽熱発電事業の展開を強化していきます。

また、イタリアでの太陽熱発電の各種事業機会を足がかりに、将来的には、中東・北アフリカ地域へと事業拡大を図り、環境にやさしいエネルギーの供給に貢献していきます。

メガソーラー建設実績

	顧客名	案件場所	発電規模
運転中	ソーラーフロンティア(株)	宮崎県	2.0MW
	国際石油開発帝石(株)	新潟県	2.3MW
	(株)相川プレス工業	山梨県	1.8MW
	昭和シェル石油(株)	宮崎県	2.4MW
EPC 遂行中	三交不動産(株)	三重県	5.2MW
	三交不動産(株)	三重県	2.5MW
	石油資源開発(株)	北海道	2.4MW
	ORソーラー(株)	富山県	2.5MW
	エルエムサンパワー(株)	福岡県	2.6MW
	エルエムサンパワー(株)	茨城県	2.5MW
	エルエムサンパワー(株)	福井県	2.6MW
	エルエムサンパワー(株)	宮城県	8.8MW
西部石油(株)	山口県	10.4MW ^(注)	

(注) 発電出力8.19MW

メガソーラー出資実績

西部ガス(株)の100%子会社と太陽光発電事業の事業会社エネ・シードNOK(株)を共同で設立(2012年7月)

	顧客名	案件場所	発電規模
運転中	大牟田太陽光発電所	福岡県	1.3MW
	長崎太陽光発電所	長崎県	0.6MW
	北九州太陽光発電所	福岡県	1.8MW

国内外グループ会社の活動紹介

千代田マレーシア・センドリアン・ベルハダ (CMSB) <http://www.chiyoda.com.my/> アスラム・ダマイでチャリティー活動

CMSBレクリエーションクラブでは、社員が使用しなくなった衣料品や本、おもちゃなどを集めたことをきっかけに、アスラム・ダマイ(セランゴール州・クアング)にある児童養護施設でチャリティー活動を行っています。これまで、社員や経営陣から洗濯機やアイロン、文房具などを寄贈しています。

2012年11月10日にはチャリティー・イベントを開催し、子どもたちと一緒に屋外で簡単なゲームをして遊んだほか、最後は、現地の住民の方々とCMSBメンバーが参加して賞品贈呈式を行い、昼食を楽しむなど、半日に及ぶ有意義なイベントとなりました。



千代田シンガポール・プライベート・リミテッド (CSL) <http://www.chiyoda.com.sg/> 老人ホーム訪問

CSRの一環として、地元コミュニティの支援イベントは重要であると考えています。

2012年10月25日には、CSLの社員が聖ヨセフ老人ホーム&ホスピスを訪問し、“入居者に食事を届けよう”活動に参加しました。この活動はCSLレクリエーションクラブが主催したものです。

参加者は施設を訪問し、食事の世話や、一緒に庭を散歩するなど、入居者をサポートしたほか、施設事務局に社員からの寄付金を手渡しました。

千代田工商(株) <http://www.cks-ykh.co.jp/> 安全・品質トラブル撲滅宣言

一年のスタートに際し、会社トップの「年頭訓話」を社内に発信することが恒例となっています。2013年は初めての企画として、監物社長より「安全・品質トラブル撲滅宣言」と題し、社内に向けて宣言を行いました。メンテナンスエンジニアリングを主体とする当社にとって、SDM(Shut Down Maintenance=定期修理工事)の特殊性に加え、グローバルオペレーション下における当社の役割などを確実に実行するために、「安全と品質トラブルの撲滅」が絶対条件と判断されたためです。内容的には、過去のトラブル発生原因を踏まえ、以下3点の実施ポイントを掲げ、取りまとめられました。

- ①コミュニケーションを良くし、問題点や要望などを吸い上げ、素早くフォローアップする。
- ②業務に従事する監督および作業員、ならびに役職員全員が「危機意識」を共有する。
- ③日々の業務を「緊張感」と「使命感」を持って遂行する。



千代田フィリピン・コーポレーション (CPh) <http://chiyodaphil.com.ph/> 緑豊かなコミュニティへ

植樹活動は植生地の保護の一環であり、また、千代田グループのCSRビジョンの一つでもある“環境への取組”です。

2012年9月8日、マニラのリサール州サンマテオにあるピントンブカウエ村で“木を植えて緑豊かなコミュニティをつくろう”をテーマに、CPhの従業員77名がボランティアとして参加し、500本の苗木(ランブータン、ヤカル、モラブ、カマゴン)を植樹し、環境保全に貢献しました。

植樹活動は、CPhが継続的にCSRビジョンを支えるために積極的に取り組む大きな挑戦です。

ゴミ削減キャンペーン

環境保全活動の観点から、健康的で清潔な労働環境はCPhにとって大きな目標です。

2012年5月10日、CPhでは“ゴミ削減キャンペーン”を開始しました。これは、会社が排出するゴミの量をモニタリングし従業員にフィードバックすることによって、従業員一人ひとりの環境保全に対する意識をより高めることを目的としています。さらに、このキャンペーンは、従業員の3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推奨し、次世代へ持続可能な環境を引き継ぐことを目指しています。





千代田ユーテック(株) <http://www.utc-yokohama.com/>

環境・人材育成などを通じた国際貢献

千代田ユーテックでは、コンサルティング業務の一環として、主にJICAを通じ国際的にも多くの活動を行っています。

社会インフラとして重要な水処理分野では、2010年度から(株)協和コンサルタンツへの支援業務として、パラグアイにおける給水システム改善計画の準備調査や詳細設計に協力してきました。また、日本の耐震技術を海外展開すべく、2011年度は(社)日本プラント協会および千代田アドバンス・ソリューションズ(株)(当時)と共同で、ベトナム、インドネシア、フィリピンを対象に調査業務を実施。2013年度は(株)協和コンサルタンツとジョイントベンチャーを組み、パラグアイ国コロネルオビエド市を対象に前回と同様の調査を行う予定です。

そのほか、千代田化工建設が1976年に始めたサウジアラビアKFUPM大学の学生研修((一財)国際石油交流センター 国庫補助国際協力事業)に協力し、サウジアラビアと日本の友好関係の構築に貢献しています。昨年は6名の学生を受け入れ研修を実施し、今年も継続して研修を行う予定です。



千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(Chiyoda Alman) <http://www.chiyoda-almana.com/> イフタルパーティー2012を開催

イスラム教では、日の出から日没まで断食を行うラマダーン(断食月)は神聖な月としてとらえられています。「イフタル」とは、日没後、断食の終焉を家族や友人とともに祝う夕食を指します。社員の結束とラマダーンへの敬意を込めて、Chiyoda Almanでは年に一度全社員を招待し「イフタル」の夕食会を開催しています。2012年は8月15日にドーハ・マリオット・ホテルにて夕食会が開催され、シニアマネジメントも全社員の貢献を労いました。

千代田タイランド・リミテッド(CTL)

BVプロジェクト—地域住民に資材置き場の一部を解放

CTLがタイ東部にあるマプタプット工業団地において建設中のBVプロジェクトでは、一般的なCSR活動として近隣道路や排水溝の清掃に加え、資材置き場の一部を地域の仮設飲食店(屋台)に解放するというユニークな試みを行っています。

これは約2,000名の作業者の食生活を豊かにすると同時に、地域への資金還元にも役立っています。同現場に食堂を設置していますが、食事の選択肢が広がることは労働環境の向上にもつながると考えています。

敷地を開放するに際して衛生や安全にも配慮しており、担当者が毎週巡回し、危険な施設や調理器具がないかを点検しています。食事後の廃棄物についても、本プロジェクトが責任を持って処理をすることで顧客の理解を得ています。



エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(L&TC) <http://www.Intchiyoda.com/> ウッタラヤン—たこ揚げ祭り

2013年1月10日、L&TCでは「ウッタラヤン」と呼ばれるたこ揚げ祭りをお祝いしました。「ウッタラヤン」はインドの代表的な伝統的国民のお祭りの一つで、L&TCがあるインドのグジャラート州において、春の訪れを祝うため、毎年この時期に盛大に行われます。

当日は、社内イベントを開催し、年齢や性別、信条にかかわらず、新しいカラフルな服に身を包んだ全社員が、たこ揚げと地元の名物料理を堪能するとともに、社員同士の交流を心ゆくまで楽しみました。

千代田システムテクノロジーズ(株)(CST) <http://www.cst.chiyoda.co.jp/>

CSTワールドカフェの開催

CSTは、2012年10月1日に千代田グループ2社が合併して誕生しました。この統合は異業種間の統合であり、組織文化のほか、業務の仕組み・やり方なども異なっていました。新会社は双方のシナジーを生かし新たな時代に向かって進化する必要があり、違いを超え全員の心をつなぐことを目的に「ワールドカフェ^(注)」を開催しました。これまで5回実施しましたが、初めて顔を合わせる人も多く、各回ともに活発な意見交換が行われました。



(注)ワールドカフェはアニー・ブラウン氏とデイビッド・アイザックス氏によって、1995年に開発・提唱されました。「知識や知恵は、機能的な会議室の中で生まれるのではなく、人々が自由に会話できる「カフェ」のような空間でこそ創発される」という考えに基づいた話し合いの手法です。

CSR vision

信頼される企業

取引先との技術交流

北米ユーザーとの技術交流を目的とした「北米CT-121ユーザー会議2012」を開催

当社は、2010年の北米SO₂(二酸化硫黄)規制強化に伴い、米国の各電力会社向けに当社の代表的な環境関連技術である「千代田サブレッド121排煙脱硫装置(CT-121)」を技術供与しており、現在、29基、18,700MW相当となるCT-121が順調に稼働しています。

2006年より毎年開催されている「北米CT-121ユーザー会議」は、北米ユーザーとの技術交流を目的としており、当社は技術ライセンサーとして、ユーザー各社の運転上の問題などについてアドバイスを行っています。2012年8月には8回目のユーザー会議がオハイオ州コロンバスで開催され、北米ユーザーであるアメリカン・エレクトリック・パワー社、サザン・カンパニー・サービス社、デイトン・パワー・アンド・ライト社、パワー・サウス社に加え、技術供与先のブラック・アンド・ヴィーチ社および当社からのメンバーを含め約40名が参加しました。また今回初めて欧州からドン・エナジー社(デンマーク)も参加し、熱心な技術ディスカッションが行われました。



ジョージア パワー社(米国) ボーエン発電所
3号ボイラー CT-121排煙脱硫設備

「社会環境変化に伴う設備の維持」をテーマに「ChASフォーラム2012」を開催

2012年10月、当社との合併により千代田アドバンスト・ソリューションズ(株)(ChAS)はChAS(チェイス)事業本部として新たにスタートしました。

「ChASフォーラム」は、ChAS事業本部が合併前から社外向けメッセージの発信を目的として、継続的に開催しているものです。2012年はグローバル本社レクチャーホールにて、「社会環境変化に伴う設備の維持」をテーマに開催しました。このフォーラムはお客様の関心も高く、30社以上の企業・団体および千代田グループ各社を含め200名以上が参加しました。

重要取引先である石油会社2社、大学教授および当社から、「事業革新と戦略」「事故防止の観点からみた安全操業」「設備管理を支える先進技術」などについての講演が行われ、講演終了後も、活発な意見交換が続きました。

アンケート結果でも高い評価をいただき、当社が推進する、お客様の事業のあらゆる局面において、適切で、総合的なソリューションを提供するPLE^(注)の概念を共有していただく一助になったものと考えています。

(注) Project Lifecycle Engineeringの略。プラントの事業化計画から建設、運転、保守、増設・改造、そして廃業に至るまでのプロジェクト。



フォーラム開会の挨拶を行う久保田社長(現会長)

製薬会社との意見交換の場である「ファーマセミナー2013」を開催

医薬品業界は時代の要請に応え、さまざまなチャレンジをしていますが、近年は抗体医薬を中心としたバイオ医薬品が特に注目を集めています。このバイオ医薬品の製造法は、バイオ関連技術の発展とともに日々進歩しており、この2、3年でも製造アプローチが目まぐるしく変化しています。

この背景を受け、2013年2月、当社の医薬品プロジェクトセクションはグループ会社の千代田テクノエース(株)と共同で、技術提携先の米国大手エンジニアリング企業ジェイコブズ社を招聘し、バイオ技術の最新トレンドをテーマに「ファーマセミナー2013」を開催しました。50年以上の医薬品製造設備建設プロジェクト遂行の実績を誇る千代田グループと、大手製薬会社プロジェクトをグローバルに展開しているジェイコブズ社の事例紹介とともに、「バイオ医薬製造設備の最新アプローチ」についての講演を行いました。このセミナーは、横浜・富山の2会場で開催し、製薬会社を中心に約150名の方々にご参加いただき、積極的な意見交換を行うことができました。



2013年2月28日に開催した富山会場の様子

CSR vision

環境への取組

使いやすい水素エネルギー
「SPERA水素®」の開発

水素は利用時に水に変化するクリーンなエネルギーとして将来の低炭素社会で主役を担うものとして期待されています。当社は、世界に先駆けて水素エネルギーを大量に貯蔵・輸送する技術を開発しました。これは液体トルエンを水素化して、常温常圧の液体メチルシクロヘキサンとして貯蔵・輸送する技術です。これによって、LNGや液化水素などのように極低温技術が必要とせず、通常のタンカーやタンクを利用して、大量輸送や長期貯蔵が可能となります。子安オフィス・リサーチパーク(神奈川県横浜市)に建設した実証プラントで運転を行い、所定の性能を確認しました。当社は「SPERA水素(希望の水素)®」の名称で、水素エネルギーを地球上のあらゆるユーザーに大量供給する「大規模水素貯蔵・輸送システム」の実現に向けて取り組んでいます。



水素を固定・発生する反応のセクション部分(上)と貯蔵設備(下)

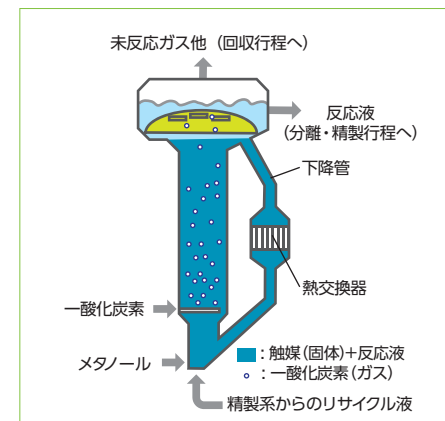
「ACETICA®(酢酸製造プロセス)」の開発

当社はグリーン・プロセス(環境への負荷を可能な限り抑えた製造プロセス)「ACETICA®(酢酸製造プロセス)」を開発し普及に努めてきましたが、2012年、ブラジルのペトロプラス社とライセンス供与契約を締結しました。

「ACETICA®」は、現在主流の製造法であるメタノール・カルボニル化法で使用されている触媒のロジウム錯体を当社が開発した担体に固定化し、この固定化触媒の特徴を生かす最適な反応器(気液固三相循環気泡塔反応器)を開発することで完成しました。

触媒の担体への固定化は、触媒を反応器に封じ込めることにより反応生成物からの触媒の分離操作が不要となるだけでなく、触媒中に含まれる環境に有害な物質の系外への流出を無くし、高価な触媒(遷移金属錯体)の損失を本質的に解決する手段として極めて有効です。

気液固三相循環気泡塔反応器の構造



シャトル船・洋上圧入方式(CCS)の開発

CCS(Carbon dioxide Capture and Storage)とは、火力発電所などの排気ガスからCO₂(二酸化炭素)を分離回収し、貯留サイトまで輸送し、サイトの地下に圧入貯留する技術で、地球温暖化防止策の有力な手法です。CCSにおける輸送手法として、パイプライン・船舶・ローリーの3手法について開発・検討されています。

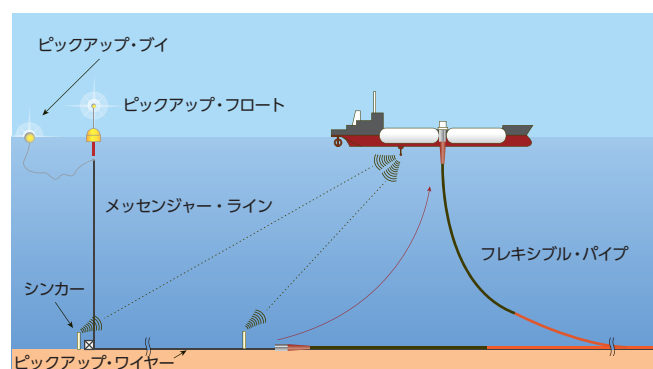
シャトル船・洋上圧入方式は新しい船舶輸送方法であり、当社は豪州連邦政府が設立したGCCSI(Global CCS Institute)から2年にわたる補助金を得て、発案者である東京大学・尾崎雅彦教授の技術指導もいただきながら、その技術および経済性を検証しました。この方式は、火力発電所などから無人の海域貯留サイトまで中型(積載量3,000トン)のシャトル船で液体CO₂を輸送し、フレキシブル・パイプを通じて直接CO₂を圧入します。パイプラインと比べ長い輸送距離や深い水深に対応でき、輸送量・輸送距離の計画変更に対応しやすく、大型船と比べ陸上施設・洋上施設が小規模で済むことなどの利点があります。当社

は、分離回収手法を含め、CCS統合システムを開発し、地球温暖化防止に貢献することを目指しています。

※ シャトル船・洋上圧入方式の報告書は、下記のGCCSIのホームページで公開されています。

http://www.globalccsinstitute.com/publications

シャトル船・洋上圧入方式CCS説明図





CSR vision

事業を通じた社会への貢献

パプアニューギニアのLNGプロジェクトで地域住民雇用

エクソンモービル社向けLNGプラントを、現在当社はジョイントベンチャーのリーダーとして首都ポートモレスビー近郊に建設中です。

本プロジェクトは、パプアニューギニアにとって有益な経済効果をもたらすものと期待されています。周辺には4つの村があり、2,000名以上の地元住民を当プロジェクトの建設現場で雇用し、トレーニングを行いながらスキルアップを図っています。



環境出前授業を初めて中学校で実施

2006年より、「水を大切に」「資源を大切に」をテーマとして、主に小学生対象に環境出前授業を行っています。

2013年2月21日、川崎市立今井中学校1年生約120名に対して出前授業を実施しました。濾紙と活性炭を使用した水を綺麗にする実験を通じ、水資源に限られる中、大量に水を使用している現状と、水の大切さを体感してもらいました。なお、今年度末の当授業の参加者は累計で1,700名を超えました。

2012年度に実施したその他の活動事例
(国内グループ会社)

大学教育への協力(講師派遣)	7名
教員の企業研修	12名
インターンシップ学生の研修	34名
環境授業	406名
TABLE FOR TWO	継続中
グリーンキャンペーン(清掃活動)	9名
被災地支援活動	48名
地域貢献活動	7名

日本フィルハーモニー交響楽団コンサートに
視覚障がい者の皆さんをご招待

2011年に引き続き、2012年12月27日に横浜みなとみらいホールにおいて開催された日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートに、横浜市視覚障害者福祉協会の皆さん28組56名をご招待しました。

横浜市社会福祉協議会からは、当社の活動に対する感謝状をいただきました。贈呈式には、招待者を代表して横浜市視覚障害者福祉協会の理事ほか1名が出席され、「素晴らしい演奏でした。生の音楽はCDなどの音とは異なり全音域を全身で聴くことができます。このような機会に心から感謝申し上げたい」とのお言葉をいただきました。



感謝状贈呈式
横浜市社会福祉協議会 芳賀常務理事(中央)
当社 小保方常務(現顧問、右)

障がい者地域作業所製品の
社内販売会(ハートメイド販売会)を開催

2013年3月12日、横浜市社会福祉協議会に協力し、障がい者地域作業所で製作されたクッキー、雑貨の販売会を当社グローバル本社のリフレッシュルームで開催しました。菓子類は短時間で完売となり、お菓子の味や小物類のデザインなど大変好評でした。売上は、製作者である障がい者の方々への支援に貢献しています。今後も定期的開催予定です。



Voice ステークホルダーの声

御社との出会いは、本社を横浜市西区みなとみらいへ移転される半年程前の2011年10月、日本フィルハーモニー交響楽団コンサートチケットの寄付のお申し出に対し、招待先をコーディネートしたことでした。その際、「地域に根差した社会貢献活動を進めたい」という御社の想いを伺ったことをきっかけに、いくつかの活動をご提案させていただくと、障がい者地域作業所製品の社内販売や、みなとみらい地区で行われる社会貢献イベントへの参加などが次々と実現されました。このスピード感は、社会貢献活動に対する御社、そして社員の皆様の高い意識の表れだと思います。横浜市社会福祉協議会は企業の社会貢献活動の相談窓口として、これからも御社の想いをともに実現していくことを楽しみにしています。

社会福祉法人 横浜市社会福祉協議会
地域活動部市民活動支援課 課長 加藤 一郎 様



CSR vision

人の尊重

「千代田ファミリーデー」開催

2012年8月24日、「千代田ファミリーデー」を開催しました。これは未来創造室活動の一環として、社員の家族を当社グローバル本社に招き、会社や社員がどのような仕事に従事しているのかを紹介し、当社への理解を深めてもらうとともに、家族や社員同士のつながりを高めるために企画されたものです。

当日は76組158名の社員の家族が参加し、大変にぎやかにスタートしました。千代田らしく外国人の家族も多く、進行は日本語と英語で行いました。

第一部では、当社が手掛けたプラントをDVDで紹介したほか、プロジェクト業務の流れを紙飛行機づくりの中で模擬体験してもらうなど、参加者が楽しみながら当社を理解するプログラムとしました。

第二部では当社労働組合の広報・レク部が中心となって、プラント3Dモデルの体感をはじめ、現場をGoogle Earthで見たり、現場で使用するつなぎやハーネスを着用するなど、当社の仕事を楽しみながら体験するコーナーとしました。

最後は、社員がそれぞれの家族を連れて執務スペースをまわり、家族も興味深くオフィスを見学。体験コーナーでは、お子さんが自ら作成した模擬の名刺を社員同僚と交換するなどの微笑ましい場面も見られました。

今後も未来創造室活動の一環として、社員同士、家族同士、そして地域とのつながりを深め、一体感を高める企画を実施する予定です。



労働安全衛生マネジメントシステム (OHSAS18001) の認証取得

2003年度からOHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)に準拠したシステムを構築し、自主運用を行ってきましたが、このシステム運用について第三者による評価を得るため認証機関による審査を受け、2013年2月に認証を取得しました。



OHSAS18001認証書

環境マネジメントシステム (ISO14001) の認証範囲の拡大

OHSAS18001の認証取得を機に、既に認証取得済みISO14001の認証範囲をOHSAS18001と合わせるため、認証範囲の拡大審査を受け、海外プロジェクトを認証範囲に加えました。



ISO14001認証書

キャリアガイダンス説明会

2013年4月19日、エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)において、キャリアガイダンス説明会を開催しました。同社ITセクションの上席研究員がエンジニアリング分野におけるキャリア形成について説明し、説明会に出席した学生と保護者からは、「将来のキャリア形成を考える上で有益なガイダンスや方向性に関する情報を得ることができた」と好評でした。



Voice 役員の声

千代田シンガポール・プライベート・リミテッドは、緊密な労使関係構築に向けた取り組みと貢献に対し、シンガポール工業・サービス労働組合(SISEU)から表彰されました。当社の長年の公正正大な企業経営の証しとして、役職員一同、大変うれしく、また光栄に思っています。2012年11月9日に開催された同労働組合年次総会で、さまざまな多国籍企業のトップマネジメントが出席する中、来賓のジョセフィン・テオ大臣から表彰の盾をいただきました。



Mr. Hikaru Morita
Managing Director
Chiyoda Singapore (Pte.) Limited
(写真右)右から2人目、(写真左)後列左から3人目が本人





CSR vision

公明正大な企業運営

コンプライアンスへの取り組み

■ 国内外出張所・グループ会社との連携強化

従来、実施している「海外グループ拠点コンプライアンス研修」に加え、「グループ会社社長会」においてもコンプライアンス説明会を組み入れ、各拠点の責任者に直接徹底を図りました。また、国連グローバル・コンパクトへの参加を機に行動規範などを取りまとめた『CSRハンドブック』（第3版）を発行し、千代田グループ全従業員に配布しました。



グループ会社社長会



CSRハンドブック(第3版)

■ サプライチェーンへの展開

コンプライアンスの徹底を千代田グループのみならず、機器・資材メーカーや工事協力会社など取引先にも働きかけ、CSRを含めてその重要性を共有する試みの一環として、取引先との定期会合で『CSRハンドブック』を配布しました。また反社会的勢力の排除を目的に、標準取引約款を改訂し、反社会的勢力排除条項を盛り込みました。



取引先との会合

■ 継続的なコンプライアンス教育および監査の実施

米国法や英国法による域外適用などグローバルに高まる腐敗防止の動きに伴い、①全案件を対象としたチェックシステム強化、②業務プロセスに関する社内規定の厳格化、などによりうっかりミスの撲滅、相互けん制の強化を図り、さらに透明性を高める活動に取り組みました。



海外拠点訪問

■ 情報セキュリティの徹底

2001年より専門部署を設置し、プラントエンジニアリング会社として国内はもとより、世界各国の取引先企業の重要な技術情報を取り扱っているという認識の全社員への周知・浸透を図るとともに、情報セキュリティルール遵守のための教育・啓発、モニタリングを継続的に実施しています。

■ 安全保障貿易管理の意識向上

テロ・地域紛争、大量破壊兵器拡散防止という国際的な安全保障の目的に沿った輸出管理体制の構築・運営の一環として、安全保障貿易管理の基礎を学ぶ一般研修と、審査業務に携わる部門所属者を対象に具体的な留意点を解説する分野別研修を継続的に実施し、社員一人ひとりの意識の向上に努めています。

2012年度に千代田化工建設が主催した研修

コンプライアンス関連

管理職コンプライアンス研修	95名
執行役員コンプライアンス研修	22名
グループ会社社長会コンプライアンス説明会	1回
海外グループ拠点コンプライアンス研修	4カ所
建設業法講習会	37名
下請法講習会	54名
海外腐敗行為防止講習会	45名
相談・通報窓口受付担当者研修	13名
出張所長赴任前研修	22カ所
全社通達(セクシャルハラスメント防止)	1回

安全保障貿易管理関連

全社通達(輸出管理通達)	4回
安全保障貿易管理一般研修	4回 82名
安全保障貿易管理分野別研修	1回 32名

情報セキュリティ関連

情報セキュリティeラーニング	1回 366名
情報セキュリティ研修	4回 461名
全社通達(各種注意喚起)	15回

CSR総合研修

新入社員CSR総合研修	85名
キャリア採用者CSR総合研修	1回 14名

相談・通報制度の実績

職場環境の改善	5件
就業規則の遵守	3件
注意喚起の要望	1件
その他	4件

Voice 担当者の声



相談・通報制度は違法行為や反倫理的行為に関する早期発見と是正・防止を図ることを目的としており、すべての業務関係者が利用できる制度です。私は女性の職場関係の窓口を担当していますが、面談では日常の職場におけるコミュニケーションの大切さを痛感しています。気楽に安心して相談いただけることを心がけるとともに、重大な問題になる前に相談いただくことで早期の対応・解決につなげられるよう、これからも自己研鑽に努めていきます。

相談・通報制度窓口受付担当者
HRM ユニット 須川 浩美

第三者意見

「千代田化工建設 グループCSR報告書」の客観性を高め、CSRの課題をとらえるために、有識者からの第三者意見をいただいています。寄せられたご意見は、今後の報告書作成に生かすとともに、千代田グループのCSR活動を推進する上で参考にさせていただいています。

本書では、まず冒頭のトップメッセージに注目しました。ここで述べられている①事業領域の多様化、②新興国・途上国の地域社会への貢献、③事業遂行のグローバル分担体制の定着という「10年後の千代田グループのあるべき姿」はCSR活動と密接な関連を有していると考えられるからです。

メガソーラー発電所の設計・施工、太陽熱発電設備企業への資本参加、水素エネルギーを大量に貯蔵輸送する(SPERA水素[®])技術開発などは、事業そのものがエネルギー資源枯渇と温室効果ガス排出による気候変動といった社会課題を解決する事例であり、「戦略的CSR」の実践だといえるでしょう。

一方で、建設や保守に携わるLNGなど各種プラントが環境・社会側面の高リスク地域に立地するケースは、ますます増えていくでしょう。油田・ガス田開発調査などのアップストリーム分野への進出にあたっては、より細心の安全・環境に関する配慮が求められます。途上国の空港建設などのインフラ整備では、大規模な土地の改変に伴う自然や周辺住民への影響に細心の注意を払う必要があるでしょう。マイナスのインパクトを認識し、その対応を図る「守りのCSR」の強化も不可欠です。

また新興国・途上国の地域社会への貢献を目指す際にも、従来のような慈善活動やイベント開催に加え、事業サイトの周辺コミュニティにおける人権配慮や持続的な雇用機会の創出が鍵になります。「資源の安定確保」を旗印にした行動も、資源ナショナリズムの高まりの中で、さまざまな評価を受けることもあります。「真のコミュニティ開発につながるCSR」をステークホルダーとの対話などを通じて検討し推進することが期待されています。そして、グローバル分担体制の定着は、千代田グループが、どこまで「ダイバーシティを重視したマネジメント」を実現できるかにかかっていると思料します。これは「労働慣行におけるCSR」と大いに関係づけられるものです。

本書では、2013年4月に「危機管理ユニット」を設置されたという記述に注目しましたが、「守りのCSR」、「真のコミュニティ開発につながるCSR」、「労働慣行におけるCSR」の諸側面については、Webサイトなどにより記述を拡充されてもよいのではないかと感じました。また、2012年11月に国連グローバル・コンパクトに参加された事実も、この一年間の大きな進捗ですが、署名と同時に毎年、COP(コミュニケーション・オン・プログレス)の作成と提出が求められることとなります。仮に本書をもってCOPとされるのであれば、ビジョン区分「人の尊重」の項に従業員以外の関係者における人権尊重の記述を、「公正正大な企業運営」の項に腐敗防止の記述を、同様に拡充されることを提案いたします。

「貧困、環境、資源確保などグローバルな課題解決に向けて社会の求める価値をエンジニアリングで提供する」「さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションの積み重ねを基礎とする」という企業努力の着実な継続を期待いたします。



(株)日本総合研究所 理事
足達 英一郎 氏
(あだち えいちろう)

1986年一橋大学経済学部卒業後、1990年(株)日本総合研究所入社。経営戦略研究部、技術研究部を経て、現在、ESGリサーチセンター長。主に企業の社会的責任の観点からの産業調査、企業評価を手がける。三菱商事復興支援財団理事も務める。

主な共著書に『CSR経営とSRI』(2004年、きんざい)、『地球温暖化で伸びるビジネス』(2007年、東洋経済新報社)、『環境経営入門』(2009年、日本経済新聞出版社)など多数。





当社「SPERA水素[®]」実証プラントを視察する足達氏(右)


私たちはグループの力を集結して事業を進めています


主要なグループ会社 (2013年3月31日現在)


〈国内グループ会社〉


 **千代田システムテクノロジーズ株式会社**
電気・計装・制御の設計・調達・建設・保全、統合ITシステムのコンサル
ティング・開発・運用および社会インフラ設備に係る各種事業


 **千代田工商株式会社**
各種産業用機械設備の設計・建設・メンテナンス、保険業務等

 **千代田テクノエース株式会社**
医薬品工場をはじめとしたファインケミカル施設、各種研究施設
などの企画から設計、調達、建設、試運転等

 **アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社**
財務・会計・税務に関する総合コンサルティングおよび業務受託等

 **AHEAD・インターナショナル株式会社**
旅行業、航空貨物、資材輸出業務等

 **千代田コーデック株式会社**
各種産業用機械設備・地域開発等の総合コンサルティング、
ISO認証維持のための審査業務、人材派遣業

 **アロー・ヒューマンリソース株式会社**
総合人材サービス、人材派遣業、職業紹介業、
アウトソーシング事業、教育・研修事業



〈海外グループ会社〉

・各種産業用機械設備の設計・建設等

千代田フィリピン・コーポレーション(フィリピン)

エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(インド)

千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(シンガポール)

千代田シー・シー・シー・エンジニアリング・プライベート・リミテッド
(シンガポール)

千代田インターナショナル・コーポレーション(アメリカ)

ピー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア(インドネシア)

千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド(ミャンマー)

千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)

千代田タイランド・リミテッド(タイ)

千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(カタール)

千代田サラワク・センドリアン・ベルハッダ(マレーシア)

千代田ペトロスター・リミテッド(サウジアラビア)

CSRへの取り組みに対する
社会的責任投資(SRI)評価機関からの評価
(2013年8月現在)



FTSE社(英国)の社会的責任
投資指標に組み込まれています。



「DJSI Asia Pacific」の構成銘柄として採用されています。



国連グローバル・コンパクトに
参加しています。



〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー

本報告書に関するお問い合わせ先:
CSRユニット(TEL 045-225-7741 FAX 045-225-7224
E-mail csr@ykh.chiyoda.co.jp)



本冊子は、森を元気にする「間伐と間伐材の有効活用に寄与する紙」を使用し、鉛物油を
含まない「Non-VOCインキ」を使い、「水なし印刷」で印刷しています。